

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 017
(2019/20年度 USDA 米国農務省 12月10日発表)

[ハイライト] ①US産コーン・大豆の主要18州収穫率は今月初め其々92%/96%となり収穫量はほぼ確定し、マーケットは動きが乏しい中「需給相場」入りとなった。②一方、南半球BRAでは大豆の本格的作付シーズンに入り民間調査機関の発表では11/14現在作付進捗率は65.9%と順調であり年明け1月初めには収穫/輸出が始まると予想される③大豆生産/輸出の世界ではこの数年でUS/BRAの立場は完全に逆転、今年度はBRA 123/76百万ト vs US 96/48百万トとBRAは#1に躍進。一方、コーンはUS生産347百万トと圧倒的であるが、輸出ではBRA 36/ARG 33/UKR 30と3ヵ国計1億トとなりUS 47百万トの2倍を超え、US一強時代の終焉を思わせる構造変化が起きている。④注目の難航していた米中貿易協議は13日、米国農産物輸入拡大/知的財産権保護等9項目の「第一段階の合意」に達した。これにより中国は米国の第四弾関税上乗せ見送りに対応し米国農産物400~500億ドル大量購入との報道。大豆は最低100万ト+コーン/豚肉も上乗せされる模様。⑥また、最近報道加熱気味の中国ASF拡散問題は、別紙特集で示した通り世界的な食肉/食糧需給関係の“負の連鎖”の全体像がほぼ浮かび上がって来ており混乱の長期化と大豆等の海上貿易量減少が懸念される。

1、世界穀物需給の概要（大豆除く）

- ① 生産量：2,666百万ト（前年比1.4%増、前月比0.3%増）
- ② 消費量：2,664百万ト（前年比0.6%増、変わらず）
- ③ 貿易量：427百万ト（前年比▲0.5%、前月比▲0.3%）

2、とうもろこし

- ① 生産量：1,109百万ト（前年比▲1.4%、前月比0.6%増）
- ② 消費量：1,127百万ト（前年比▲1.7%、前月比0.1%増）
- ③ 貿易量：167百万ト（前年比▲7.6%、前月比▲0.3%）
- ④ 概況：前月と比べ大きな変動はないが、国別では市場におけるUKRの台頭が著しい。同国の生産量3550万トのうち約3000万トが輸出されこの5年間で倍増。非GMOコーンとして主にEU中東に販路を拡大している。価格は\$3.67/Bu（前年\$3.74/Bu、前月\$3.89/Bu）と前月比¢22下落した。

3、小麦

- ① 生産量：765百万ト（前年比4.7%増、前月比変わらず）
- ② 消費量：754百万ト（前年比2.3%増、前月比▲0.1%）
- ③ 貿易量：180百万ト（前年比3.8%増、前月比▲0.5%）
- ④ 概況：AUSは早魃被害が深刻で減産が続いているが中国/EU等の増産もあり前月比変化無。市場全体は世界的な小麦消費増大もあり輸出も含め拡大している。ただ生産が消費を若干上回り在庫は289百万トと史上最高。価格は\$5.33/Bu（前年\$5.20/Bu、前月\$5.16/Bu）と前月比¢17下落した。

4、大豆

- ① 生産量：337百万ト（前年比▲5.8%、前月比0.3%増）
- ② 消費量：350百万ト（前年比1.8%増、前月比変わらず）
- ③ 貿易量：149百万ト（前年比▲0.1%、▲前月比0.4%）
- ④ 概況：生産はBRAで増加したがUSの大幅減産（▲20%）があり全体では前年比約6%減少。貿易量はASFの影響により中国輸入量85百万トと見込まれるが、全体的にはBRA76百万トとUS48百万トを大きく凌駕。価格は\$8.90/Bu（前年\$9.17/Bu、前月\$9.24/Bu）と前月比¢34下落した。

We wish you a Merry Christmas and a Happy New Year !!

世界の穀物・大豆等の需給

2019年12月10日
米農務省発表： 単位100万トン

	主要穀物世界の需給					期末在庫
	生産量	総供給量	貿易量	総使用量		
全穀物	2017/18	2,619	3,417	415	2,601	817
	2018/19	2,629	3,445	429	2,648	797
	2019/20	2,658	3,457	428	2,665	792
	2019/20	2,666	3,463	427	2,664	799
小麦	2017/18	763	1,026	182	743	283
	2018/19	731	1,014	173	737	278
	2019/20	766	1,043	181	755	288
	2019/20	765	1,043	180	754	290
粗粒穀物 (とうもろ こし等)	2017/18	1,361	1,747	185	1,376	371
	2018/19	1,398	1,769	211	1,423	346
	2019/20	1,395	1,742	202	1,415	327
	2019/20	1,402	1,748	201	1,417	331
大豆	2017/18	342	437	153	338	99
	2018/19	358	457	149	347	110
	2019/20	337	446	150	351	95
	2019/20	337	447	149	351	96

	世界の大豆需給					期末在庫		
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量			
世界計	11月	109.66	336.56	148.54	349.60	149.75	95.42	
	12月	109.80	337.48	147.94	349.67	149.15	96.40	
	アメリカ	11月	24.85	96.62	0.54	60.78	48.31	12.92
	12月	24.85	96.62	0.54	60.78	48.31	12.92	
アルゼンチン	11月	28.89	53.00	3.90	51.10	8.80	25.89	
	12月	28.89	53.00	3.90	51.70	8.20	25.89	
	ブラジル	11月	29.38	123.00	0.20	46.54	76.00	30.04
	12月	29.76	123.00	0.20	46.54	76.00	30.42	
中国	11月	19.39	17.10	85.00	102.20	0.13	19.16	
	12月	19.39	18.10	85.00	102.20	0.13	20.16	
	EU	11月	1.08	2.60	15.20	17.56	0.25	1.07
	12月	1.08	2.60	15.20	17.56	0.25	1.07	

	世界のとうもろこし需給					期末在庫		
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量			
世界計	11月	320.06	1,102.16	167.44	1,126.27	167.05	295.96	
	12月	319.17	1,108.62	167.56	1,127.23	166.64	300.56	
	アメリカ	11月	53.71	347.01	1.27	306.47	46.99	48.53
	12月	53.71	347.01	1.27	306.47	46.99	48.53	
アルゼンチン	11月	3.61	50.00	0.01	15.00	33.50	5.12	
	12月	3.61	50.00	0.01	15.00	33.50	5.12	
	ブラジル	11月	5.08	101.00	1.00	66.00	36.00	5.08
	12月	5.08	101.00	1.00	66.00	36.00	5.08	
EU	11月	7.55	64.56	21.00	82.50	2.00	8.61	
	12月	7.63	64.56	21.00	82.50	2.00	8.69	
	日本	11月	1.44	0.00	16.00	16.10	0.00	1.34
	12月	1.44	0.00	16.00	16.10	0.00	1.34	
中国	11月	211.32	254.00	7.00	277.00	0.02	195.30	
	12月	211.32	260.77	7.00	278.00	0.02	201.07	
	ウクライナ、 ロシア	11月	1.17	49.50	0.06	14.00	35.70	1.03
	12月	1.27	49.50	0.06	14.00	35.70	1.13	

	世界の小麦需給					期末在庫		
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量			
世界計	11月	277.90	765.55	176.53	755.17	180.68	285.28	
	12月	277.85	765.41	177.57	753.76	179.81	289.50	
	アメリカ	11月	29.39	52.26	3.27	31.46	25.86	27.59
	12月	29.39	52.26	2.86	31.46	26.54	26.51	
アルゼンチン	11月	1.93	20.00	0.01	6.05	14.00	1.89	
	12月	1.63	19.00	0.01	6.05	13.00	1.59	
	オーストラリア	11月	4.96	17.20	0.15	8.50	9.00	4.81
	12月	4.96	16.10	0.45	8.70	8.40	4.41	
カナダ	11月	5.92	33.00	0.45	9.50	24.50	5.37	
	12月	5.92	32.35	0.45	9.35	24.00	5.37	
	EU	11月	10.00	153.00	5.50	127.50	29.00	12.00
	12月	10.00	153.50	5.50	127.50	29.00	12.50	
中国	11月	139.77	132.00	3.20	128.00	1.30	145.67	
	12月	139.77	133.59	3.20	128.00	1.10	147.46	
	インド	11月	16.99	102.19	0.02	98.00	0.50	20.70
	12月	16.99	102.19	0.02	98.00	0.50	20.70	
ロシア	11月	7.82	74.00	0.48	39.50	34.50	8.29	
	12月	7.82	74.50	0.48	39.50	35.00	8.29	
	ウクライナ	11月	1.59	29.00	0.08	9.40	20.00	1.26
	12月	1.59	29.00	0.08	9.40	20.00	1.26	

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

アフリカ豚コレラがもたらす中国と世界の食糧需給構造変化

- ① 既報の通り、2018年8月に中国で発生したASF(アフリカ豚コレラ)は瞬く間に中国全土に拡散すると同時に、ベトナム・韓国等アジア全域に拡大し、全く収束の見通しが立たない深刻な状況である。このASF蔓延による社会経済的影響は中国だけでなく、アジアや世界全体に及んでいるが、以下に示す通り世界的な食肉・穀物・大豆・食用油等の食糧需給構造に大きな変動をもたらしている。
- ② まず直接的には、図表1の通り、中国は世界のおよそ半分の豚肉生産・消費大国であるが、USDA予測ではASF拡散により生産は2018年5400万吨⇒2020年3475万吨と、約2000万吨(▲36%)近く激減。その結果需給逼迫し、豚価は今年2月12元⇒10月41元/Kと史上最高値まで高騰！10月CPIは前年同月比3.8%増と「国民食」暴騰の影響は深刻である。また、2020年世界豚肉生産量は2018年比1800万吨減少(▲16%)と中国の影響大。
- ③ その為中国は豚肉輸入拡大に走っているが、世界の豚肉貿易量は約800-1000万吨程度であり、買付可能数量は限定的。USDA予測では18年156万吨⇒19年260万吨⇒20年350万吨と走っているが、この程度では2000万吨生産減少を補うのに「焼け石に水」であり、豚価高騰による豚肉消費量の抑制、鶏肉/牛肉への生産シフトも不可避であると同時に、国民の胃袋を満たす為、鶏肉/牛肉等あらゆる食肉輸入に触手を伸ばしており、日本も含め国際的な食肉価格高騰のリスクが高まっている。
- ④ 世界的な豚肉輸出国は次の通り限定されている。2018年 EU 293/US 266/CAN 133/BRA 73 計845万吨⇒2020年予測 EU 390/US 331/CAN 130/ BRA 105 計1038万吨。輸入国は2020年予測 中国 350/日本 151/ MEX 127万吨。日本は中国に次ぎ2位だが、買付負ける可能性あり。
- ⑤ 図表1に示した通り、中国では豚肉⇒鶏肉への生産シフトが顕著であり、鶏肉生産は2018年1170万吨⇒2020年1580万吨(+410万吨)と予測され、豚肉生産の落ち込み2000万吨弱の20%をカバーするという形となっている。また、世界全体で見ると2020年にはUS生産増もあり、鶏肉生産が初めて1億トンを超え、豚肉生産を上回る(103百万トン>95百万トン)という歴史的な現象をひきこす予測である。
- ⑥ また中国国内ではASFによる負の連鎖は、大豆ミール需要減⇒大豆搾油量減⇒食用油不足⇒大豆油/パーム油等の輸入急増という流れを造っている。実際の食用油輸入は図表2の通りだが、特にパーム油輸入増が顕著であり、全体輸入の約2/3(720万吨)を占め、国際価格の高騰を引き起こしている。
- ⑦ この負の連鎖の入口である大豆ミール需要減は豚肉配合飼料の減少に起因するが、中国農村統計局による今年1-6月の数字によると、養豚用は繁殖/子豚用の減少が顕著で、トータルでは前年比14%減、一方鶏肉/採卵鶏は其々12%・11%増となっているが、この増減格差はより拡大すると想定される。世界の配合飼料生産量はAllteck社によると昨年11億トン、内中国は1億8700万吨と世界最大、その70%が豚肉とされ、鶏肉/採卵鶏の増産増を考慮しても、配合飼料需要は約3千万トン程度減少する可能性がある。
- ⑧ 海上輸送量に一番影響する中国の大豆輸入量はこの豚肉配合飼料減少見込みを織り込み、ピークの2016/17年9400万吨⇒2019/20年8500万吨に減少との予測だがもう一段下げる可能性もある。また、ASF収束には5~10年必要という見方もあり、この問題は長期的視野が必要。

図表1 <世界の畜産物生産・消費の四大国比較> (出所) USDA 「Livestock and Poultry : World Markets and Trade」(10/10発表) 単位:千トン

国名	豚肉					鶏肉					牛肉			三畜種合計(2020)	2018年比	
	2015	2018	2019	2020	2020	2015	2018	2019	2020	2020	2015	2018	2019			2020
中国	56,454	54,040	46,500	34,750	13,561	11,700	13,800	15,800	6,169	6,440	6,169	6,440	6,850	6,625	57,175	79.2%
EU	23,249	24,082	24,120	24,400	10,890	12,260	12,460	12,600	7,684	8,003	7,684	8,003	7,910	7,780	44,780	100.9%
US	11,121	11,943	12,516	13,015	18,208	19,361	19,823	20,165	10,807	12,256	10,807	12,256	12,289	12,619	45,829	105.3%
ブラジル	3,519	3,763	3,975	4,155	13,547	13,355	13,635	13,975	9,425	9,900	9,425	9,900	10,210	10,800	28,930	107.0%
世界計	111,982	112,938	106,131	95,223	91,359	95,568	99,572	103,498	59,456	62,477	59,456	62,477	61,306	61,861	260,582	96.2%
中国	57,252	55,398	48,970	38,150	13,428	11,595	13,980	16,110	6,806	7,910	6,806	7,910	9,233	9,508	63,768	85.1%
EU	20,871	21,162	20,685	20,515	10,441	11,553	11,600	11,750	7,742	8,025	7,742	8,025	7,905	7,785	40,050	98.3%
US	9,341	9,748	9,951	10,101	15,265	16,184	16,598	16,912	11,275	12,180	11,275	12,180	12,240	12,422	39,435	101.9%
ブラジル	2,893	3,035	3,102	3,107	9,710	9,671	9,789	9,938	7,781	7,865	7,781	7,865	8,003	8,240	21,285	103.5%
世界計	111,508	112,340	105,663	94,789	89,542	93,611	97,510	101,278	57,633	60,642	57,633	60,642	59,571	60,052	256,119	96.1%

図表2 <中国の食用油輸入の推移> (万トン)

年度	2015/16	16/17	17/18	18/19	19/20	5年間の伸び	
主要なたんぱく粕	183	318	359	503	516	282%	
植物油計	777	800	865	1,138	1,231	158%	
大豆油	58	71	48	80	120	207%	
(大豆ミール生産)	6,455	6,969	7,128	6,732	6,732	104%	
パーム油	469	489	532	690	720	154%	

(出所)米農務省